

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100699		
法人名	社会福祉法人佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホームシオンの園末広		
所在地	佐賀県佐賀市末広一丁目9番28号		
自己評価作成日	令和元年7月16日	評価結果市町村受理日	令和1年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和元年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム末広では毎日の生活に楽しみを持って頂くために、園芸活動や、歌会等に取り組んでいます。園芸活動では観賞用植物だけでなく、野菜などの収穫できるものも育てており、収穫時にはお客様全員で調理し、食べて頂いています。作る楽しみ、食べる楽しみと持って頂く事により、生活の活性化に繋がるように努めています。また、歌会に関しても、童謡だけでなく、お客様が若いころに流行った流行歌(歌謡曲)を唄う事で、昔の事を思い出すような回想法を用いた活動にも取り組んでおります。地域の方と交流し、地域に開かれた誰もが気軽に来所できるGHを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小規模多機能型居宅介護事業所とショートステイ事業所と複合した建物の3階にあり、大きな窓からは自然の光や風が取り込まれ、見晴らしもよく、明るく穏やかな雰囲気に満ちている。調度品にもこだわり、清潔感が感じられる。ホーム内の飾りや食事では季節感を大切にしておられ、広いバルコニーでは野菜や花を入居者と職員とで育てている。住宅街と商店とが立ち並ぶ立地を活かした外出支援も行っている。地域との交流も意欲的に取り組んでおり、学生ボランティアや実習生の受け入れ、地域行事への参加等を行っている。職員が積極的に研修に参加するための工夫もされており、質の高いケアの実践を目指し、ホーム全体で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎回部会時に、経営理念、処遇モットーを全員で唱和し、実践する事を確認し合っています。また、基本方針を基に毎年重点目標を作成しています。	法人の経営理念、接遇モットーを事業所内に掲示し、出勤時や会議の場で唱和することで職員への意識づけを行っている。また、研修や会議で理念の説明が行われることで、職員が理解を深めることが出来るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校のボランティア受け入れ、施設見学の受け入れを行っています。また、定期的に職員が付き添って近所の理髪店に出掛けています。	小学校や短期大学等、幅広い年齢のボランティアを受け入れている他、季節毎の行事では近隣の学校から演奏を披露してもらうなど、地域との交流に意欲的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ(認知症カフェ)を月に一回開催し、介護相談や地域交流を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催中。行事報告、予定、事業所内での出来事、利用者様、職員の動向などを報告し、ご家族、民生委員様のご意見や質問について話あい、サービスの向上に活かす努力をしています。	2ヶ月に1回開催され、入居者の状況報告が行われている。参加者からの意見や質問をサービス向上に活かす取り組みをしており、より多くの家族に参加してもらうために、誕生日会といった季節の行事に合わせて行う等の工夫も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム職員が直接行き来する事は有りませんが、法人全体としては担当者との情報交換の機会を多く持たせていただいています。	法人全体として市との連携を取る事が多く、空き状況の相談を受けるなど、協力体制を築いている。必要に応じて地域包括支援センターへ連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が身体拘束について正しい理解ができるように、園内研修会などを開催しており、正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束は行われていない。職員が自己のケアを振り返る場を定期的に設けており、法人全体での研修や会議を通して、身体拘束をしないケアについて正しい理解する機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を会議時に行っています。また、虐待の芽チェックリストにて自己のケアをふり返る機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットの回覧などにより知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項説明書の十分な説明及び退居時にも十分な説明、話あいの場を設け、ご理解、納得を頂けるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事に参加して頂き、ご意見を尋ねる機会を設けています。また、アンケートを実施して、ご意見や不満、苦情などを表せる機会を設け、意見などに対する是正を図っています。	年賀状を家族に送るなど、入居者と家族を繋ぐ工夫を行っている。また、家族の面会時には入居者の近況報告を行い、質問にも応じている。定期的にアンケートを実施し、ホームと家族がコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回の個人面談や毎月の部会等での意見、提案を基に上申しています。	個人面談や会議の時に意見を聞き、日常会話からも意見や提案に耳を傾けるなど、職員が意見を提案しやすい環境づくりが行われている。把握した意見は、できるだけ反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び人事部での聞き取り調査等を行っています。また、福利厚生にも力を入れて働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の教育訓練計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関係の研修会を通じて、同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集し自施設のサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内の見学を含め、管理者による面談などを通じ、本人様が安心してご利用頂けるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内の見学を含め、管理者による面談などを通じ、ご家族が安心してご利用頂けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネにて十分に配慮されています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物干しや、洗濯物たたみ、テーブル拭き等の家事を一緒に行って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時や電話による聞き取り、部会でのカンファレンス会議、運営推進会議などを通じ、より良い信頼関係を築く努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの方々の面会時はゆっくり過ごして頂けるように、職員が現在の状態の説明を行う等配慮しています。	本人の意向を確認しながら、知人や親類の面会を受け入れている。同法人の介護サービスを受けている友人に会いに行っている。また、馴染みの美容室へ通うなど、外出する機会を設けて、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を全職員が共有し、孤立しないように活動時には馴染みの方と近づけたり、席順の配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス会議や日々の生活の中で、常に本人様の希望や、要望を聞き出せるよう努力しています。また、いつでも利用者様主体であることを忘れずに取り組んでいます。	家族から昔の様子を聞いたり、日常の関わりから気づきを集め、言葉だけでなく表情や仕草からも、本人の希望が引き出せるような取り組みが職員全体で共有されている。食べ物や活動への希望は、積極的に実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時やカンファレンス会議、日常の会話、面会時の会話を通じ、生活歴や今までの経過を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握できるよう、毎月の部会等で話し合いを行っています。また、急な変化についても連絡ノート等により職員間の連絡を密にとり、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族同席でのカンファレンス会議を開催し、本人様、ご家族の意見や要望を反映した介護計画の作成に努めています。	本人、家族の意向や要望を反映した介護計画が作成しており、目標や達成状況を家族に説明しやすいよう、記録の工夫もなされている。実践状況等の評価もしっかり行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別のケース記録に記入し、ケアプランの実施状況についてもケア実行表に記載しています。また、毎月の部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できる事については臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地区民生委員様にご参加いただき、地区行事等の情報を提供していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、協力医へ主治医を変更しておりますが、以前からの主治医を希望される利用者様に関しては、ご家族を通じ密に情報交換を行うよう努めています。	希望に応じてかかりつけ医の受診は可能で、ホームの協力医へ変更もできる。受診時は日頃の様子等の情報を共有することで、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員にて日常の健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看とりに関する指針を定めており、ご家族と十分に話し合いを行い方針を共有し、協力医療機関と共に支援していく体制づくりに努めています。	重要事項説明書に重度化した場合の指針を定め説明されている。定期的に家族と主治医を含めカンファレンスを重ね、終末期の介護計画の作成等、看取りまで行う体制づくりをしている。また、法人ではターミナルケアの研修を行い、入居者の状況に応じた対応を行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう周知徹底を行っており、その場での実践に備える努力をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置しています。また、毎年消防計画を作成し、昼間、夜間帯での定期的な消防訓練を実施しています。地元消防団に協力を頂き、災害発生時の避難について協議しています。	火災、地震、風水害、夜間想定など年5回の訓練をしている。近隣に避難先を確保しており、地域との協力体制が築かれている。また、地域ケアネットワーク会議でも災害時の案内を行うなど、地域で防災や避難に取り組む予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会、勉強会を通じ、常に個人の尊厳を重視した対応を心掛けています。	同性介護を基本とし、個別性を大切にした対応や言葉かけを行っている。接遇マナーの研修や自己チェックリストを実施し、職員が振り返る機会を設け、日頃から一人ひとりの人格を尊重した対応が出来るよう努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるような対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活を心がけ、利用者様の希望に添った支援となるよう柔軟な対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人様の意思を尊重しながら対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞きながら、利用者様と一緒に献立や食材を考え、食事を作るように心掛けています。食事のつぎ分け、後片付けは一緒に行っています。	入居者の希望を取り入れ、パン食など自宅で食べていた食事を入居後も食べる事が出来るよう工夫している。行事食は季節感を大切に手作りし、広いテラスでお茶会を開催するなど、食を楽しむ支援が行われている。後片付けでは食器の重さに配慮しながら、入居者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態を把握して、個々に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者様には言葉掛けを行い、介助が必要な方には個人に応じた対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行っています。また、自立の利用者様に関してもトイレ内の確認を行う事で、利用者様の排泄状況を把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っています。	入居者の生活リズムやタイミング、仕草などを分析し、個々に応じたトイレ誘導を行うことで、自立支援へ向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、繊維や乳製品のおやつを取り入れています。また、運動への働きかけを行い、出来る限り自然排便となるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施できる状態です。現在は午前中の中の入浴を実施していますが、その時々利用者様の状況や入浴希望にそった対応を心掛けています。	週3回を基本とし、入居者の希望や状態に応じて入浴支援がなされている。同性介助や声かけを工夫するなど、入居者の尊厳を大切に、気持ちよく入浴できる工夫が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活性化を図りながら、夜間の安眠に繋がるよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は、いつでも閲覧可能な状態にしています。内服薬の変更時の利用者様の症状の変化については、主治医やご家族への情報提供に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、自己の役割を持って、作り甲斐や、喜びを感じることができる生活を送って頂けるよう努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って外出できるよう努めています。	食材の買い出しや近隣へのドライブ、美容室への外出など、入居者の希望や目的に応じた外出支援が行われている。また、近隣を散策したり敷地内の畑へ出かけるなど、適宜、気分転換を図る工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはその都度対応しています。手紙やハガキが届いた時は、お渡しし、返事を書いて頂けるよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は、季節やその日の天候によってカーテンを使用するなどの配慮を行っています。室内の温度、湿度に関しては、一日三回のチェックを行い、快適に過ごして頂けるよう配慮しています。	入居者が季節を感じ、太陽の光を浴び、天気を体感できるよう工夫されている。介護記録が入居者の目に入らないよう調度品にも細やかな配慮がなされており、空調も適切に保たれ、居心地よく過ごせるよう努力されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファ、居室など好きな場所で思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品や好みの身の回りの品の持ち込みについて説明を行い、ご家族で準備して頂いています。	入居者の希望を取り入れ、個性あふれる居室作りが行われている。「自分らしく過ごせる」というコンセプトを大切にした居室は、面会に訪れた家族も心地よく過ごすことが出来るよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心がけ、安全かつ自立した生活が送れるよう努力しています。		